

湯河原宮農経済センターだより TEL62-6149

西湘きんじろう



○営業時間の変更について

令和6年9月30日(月) 12時まで営業(仮決算棚卸のため)
令和6年10月1日(火) 13時より営業(仮決算棚卸のため)
令和6年10月31日(木) 15時まで営業

【温州みかん】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

病害虫防除

9月下旬～10月中旬

○カメムシ類 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回 又は
ロディー乳剤(劇) 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫7日前 4回

10月下旬～11月上旬

○ハダニ類 オマイト水和剤 750倍 133g/水100ℓ 収穫7日前 2回

11月中旬

○貯蔵病害 ベフトップジンフロアブル(劇) 1,500倍 66ml/水100ℓ 収穫7日前 3回
(青かび病、緑かび病、軸腐病) 又は、トップジンM水和剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 5回

※ただし、オマイト水和剤とベフトップジンフロアブルの混用は避けましょう。

* 秋に発生したミカンハダニは果実に移動し着色不良の原因となりますので散布ムラのないように防除ましょう。

浮皮軽減 蛭尻期

○フィガロン乳剤 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫7日前まで 2回散布量 300ℓ/10a
1回目 蛭尻期に散布 2回目 蛭尻期の2週間後

* 7～8月にフィガロン乳剤を散布している園や、樹勢が低下している樹には散布を控えましょう。

摘果

大津・青島は大玉になりやすいので、収穫に向けてそれぞれの樹の着果量に応じ、不良果実を摘果ましょう。
(スソ、フトコロの果実から実施し、上部の天なりの大玉は最後に摘果ましょう)

【中晩柑】

病害虫防除

基本防除は上記みかんの項を参照して下さい。

施肥 10月下旬

○秋肥 特選みかん配合 655 100kg/10a (果実内容の向上・樹勢回復のため)

* 中晩柑の防除における農薬の使用日数・使用回数には十分に注意ましょう。

*

【レモン】

施肥 10月下旬

○秋肥 特選みかん配合 655 100kg/10a (果実内容の向上・樹勢回復のため)

○収穫 10月～ 傷がつきやすいので、果実の取扱いは丁寧に行う。

——【キウイフルーツ】——

病害虫防除

10月上旬

果実軟腐病

貯蔵病害 ロブール水和剤 1,500倍 67g/100畝 収穫前日 4回

施肥

樹勢回復のために9月に分肥した残り分キウイフルーツ配合40kg/10aを10月中旬に施肥します。

9月の施肥を行っていない方はキウイフルーツ配合100kg/10aを10月中旬に施肥しましょう。

——【うめ】——

施肥

○土壌改良 10月上中旬 苦土石灰 200kg/10a

○秋肥施用 10月中下旬 梅配合 120kg/10a

病害虫防除 10月上旬～11月上旬

2週間間隔で2回

○かいよう病 多発園ではICボルドー66D 50倍 2kg/100畝 葉芽発芽前まで

※カイガラムシの防除のためアタックオイルを散布する場合は、ICボルドーと混用せず、散布間隔を2週間以上空けてください。

——【くり】——

施肥

○礼肥 化成肥料14-14-14 60kg/10a

収穫後、直ちに樹勢の回復と翌年の母枝を充実させるために施用します。

イガを園内にそのままにしておく、病気の発生源となりますので、土中への埋没や園外廃棄しましょう。

——【かき】——

収穫

かきの熟度は色で判断します。着色期にも肥大しているため、品種特有の色が十分に現れるまで着色させてから順次収穫しましょう。

施肥

収穫を始めた頃

○礼肥 柿配合 50kg/10a 苦土石灰 100kg/10a

樹勢の回復と翌年の花芽充実と、着蕾を促進させる大切な肥料です。施肥が早すぎると果実の成熟が遅くなり、逆におそいと吸収されにくくなります。果色が緑色から黄色に変わる頃を目安に、極早生種は9月下旬～10月上旬、富有や次郎では10月中下旬頃行いましょう。

【お茶】

秋整枝 10月上中旬 (平均気温で18℃程度になる時期)

一番茶のために、摘採面を揃えます。(葉層は8cm以上) 再萌芽の防止や寒害の影響をうけないように、時期をはずさないようにしましょう。

(整枝位置の目安)

一番茶のみ摘採の場合：夏整枝位置の5cm上。

二番茶を摘採した場合：二番茶摘採位置もしくは二番茶整枝の5cm上。

敷き藁 秋整枝以降

冬季の根に対する乾燥と寒害の防止のため敷き藁をしましょう。

病害虫防除 秋整枝後 11月

○カンザワハダニ アタックオイル 100倍 1ℓ/水100ℓ

チャトゲコナジラミ

(晴れた日を選んで防除すると効果的です。)

【お知らせ】イミノクタジン酢酸塩を含む農薬の登録削除について

下記の品目について、農薬登録削除がありましたのでお知らせいたします。

【対象品目】

ベフラン液剤25・ベフトップジンフロアブル・ポリベリン水和剤・ベフドー水和剤
ベフキノン水和剤

- ・令和7年(2025年)10月に登録失効となっておりますので、ご注意ください。

※詳しくはお近くの営農経済センターでご確認ください。

<注意>

「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。(前日は24時間前)

「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。

△△店舗により農薬の在庫状況が異なりますので、記載の農薬を購入される場合は購入先の店舗に事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。△△

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

カメムシ駆除農薬購入助成

- スタークル顆粒水溶剤の購入費（税抜き）の1/2を助成します。
- 年に1回の申請となりますので、最終購入以後に申請してください。
- 申請期限は令和7年2月17日（月）となります。
- 申請手続きについてはお気軽にセンター職員にお問い合わせください。

カメムシ情報

カメムシ（特にツヤアオカメムシ）の越冬量が近年になく多く、果樹園などへの飛来が予想されます。また、一般財団法人日本気象協会の発表によれば、カメムシの餌となるヒノキやスギの花粉飛散量は、例年を下回っていることから、7月以降も新しく生まれた世代が、例年より早くに、果樹園地へ多く飛来する可能性があります。

果樹園の内外を見回り、発生を認めたら直ちに防除しましょう。山際の圃場、特にヒノキ・スギ林に隣接する果樹園は、急激に発生が増加することがあるため注意しましょう。また、台風通過後に飛来が多くなる場合があることにも注意しましょう。

- 夜行性のため、日没1時間後～、姿が最も多くみられます。夕方に見回りましょう。
- 集合フェロモンで仲間を呼び寄せするため、園地で飛来を認めたら、直ちにネオニコチノイド系薬剤、合成ピレスロイド系薬剤で防除しましょう。
- 無降雨条件では、ネオニコチノイド系薬剤、合成ピレスロイド系薬剤ともに残効期間は10～15日程度あることが調査により、明らかになっています。
- スタークル顆粒水溶剤等のネオニコチノイド系薬剤は、カメムシへの忌避効果も期待できますが降雨量30～50mmでも効果が低下するため、降雨時には再散布が必要になる可能性があります。
- 合成ピレスロイド系薬剤は、天敵類への影響も大きくハダニ類やカイガラムシ類の多発を招くことがあるので特に注意しましょう。
- 農薬使用の際は、必ずラベル記載事項を確認し使用基準を遵守しましょう。

ネオニコチノイド系薬剤

- スタークル顆粒水溶剤
- ダントツ水溶剤
- アクタラ顆粒水溶剤

合成ピレスロイド系

- ロディー乳剤
- テルスター水和剤